

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目で120分

## 解答形式

記述式, 空所補充

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴

例年, 大問3題構成で, 理論, 無機・理論, 有機の出題である。

難しい問題は少ないが, 計算を伴う問題が多く, 120/2分では時間的な余裕はない。

## その他トピックス

大問2(サ)アレニウスプロットによる活性化エネルギーの算出が誘導なく出題された。

大問3(ウ)フェニルアセチレンと臭素の反応については生徒は戸惑ったと思われる。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1. (1)	空所補充 記述 計算	理論	化学	Fe-Ti合金の結晶格子 水素の吸蔵量, 超臨界流体	標準
(2)	空所補充 記述 計算	理論・無機	化学	水酸化ナトリウムの性質 溶解熱, 潮解, ソルベー法	やや易
2. (1)	空所補充 記述	理論	化学基礎	ヨウ素に関する総合問題 ヨウ素原子の電子配置, ヨウ素の結晶	やや易
(2)	空所補充 記述 計算	理論	化学基礎 化学	KI水溶液の電気分解, ヨウ素滴定	標準
(3)	空所補充 計算	理論	化学	$H_2 + I_2 \rightleftharpoons 2HI$ に関する反応速度, 気相平衡, アレニウスプロット	やや難
3. (1)	空所補充 記述	有機	化学	芳香族化合物の構造決定 フェニルアセチレンの性質とその誘導体	標準
(2)	空所補充 記述 計算	有機	化学	糖の誘導体の構造決定 $\beta$ -グルコース誘導体(C <sub>14</sub> H <sub>20</sub> O <sub>7</sub> )	標準
(3)	空所補充 記述	有機	化学	アミノ酸, ペプチド, タンパク質 スレオニンとシステインのジペプチド, タンパク質の二次構造と三次構造	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

例年、理論、無機・理論、有機の3問構成で、理論では、気体、結晶、酸化還元、電池・電気分解、反応速度、化学平衡からの出題が多い。理論の全分野について標準的な問題演習を重ねるとともに、前述の分野については、特に重点的に学習を深めたい。有機は、やや難度の高い、思考力を要する問題がたびたび出題されるので、やや難レベルの演習問題に取り組む必要がある。また、計算が比較的煩雑なので、手際よく計算が処理できたかも合否を左右する。